

写真展 日中国交正常化50周年と日本の中国侵略を考える

－南京大虐殺・731部隊細菌戦毒ガス・重慶大爆撃・文化財略奪－

日時:12月12日(月)～12月18日(日)

10:00～20:00 (12日のみ正午開場、18日は18:00まで)

会場:九段生涯学習館2階九段ギャラリー

(東京都千代田区九段南1-5-10 電話:03-3234-2841)

東西線・半蔵門線、都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車 6番出口前

入場無料

今年には1972年の日中国交回復から50周年です。たしかに「日中国交の正常化」で「戦争状態の終結」が実現されました。

しかし日本の中国侵略戦争は、2000万人以上にのぼる膨大な中国人の犠牲者を出した著しく残虐で不正義の戦争でした。現実には今も戦争被害者の傷は癒えていません。しかも日本政府は日本が行った対中国戦争が侵略戦争であったことを明確に認めず、日本の戦争を美化する靖國神社を容認して支持し続けています。

これは中国側の日本に対する不信を増幅させています。

更に深刻な問題は、現在の日本の安全保障政策が「中国＝仮想敵国」を基本原理に据えて運用されていることです。これは8年前の2014年以降に進められた《集団的安全保障容認の閣議決定、日米新防衛ガイドラインの改定、戦争法（安全保障関連法）成立、防衛三文書の中国条項》によって急速に現実化しています。

しかも「敵中枢を攻撃する能力」「防衛費2倍化」が公言されています。

日中間の最も重要な課題は“平和な関係の実現”です。

72年の「日中共同声明」は、「日本側は、過去において日本国が戦争を通じて中国国民に重大な損害を与えたことについての責任を痛感し、深く反省する」と誓約しています。

今回の「写真展」は、①南京大虐殺、②731部隊細菌戦・毒ガス、③重慶大爆撃、④文化財略奪の4つの戦争被害を知り、日本の中国侵略戦争の実態を学び直そうとするものです。皆様のご参観をお待ちします。

<次頁にミニ講演のご案内>

ミニ講演 写真展会場で連日13:30～15:00 (テーマは仮題)

- 12月12日(月) 田中宏さん(一橋大学名誉教授)
「南京大虐殺85周年と日中関係を考える」
- 12月13日(火) 瀨瀨厚さん(山口大学名誉教授)
「日本の近現代史と中国侵略史」
- 12月14日(水) 東海林次男さん(東京都歴史教育者協議会会長)
「靖國神社の“戦利獅子石”の由来など」
- 12月15日(木) 大内要三さん(軍事ジャーナリスト)
「自衛隊のCBR[化学・生物・放射能]戦準備と隠蔽体質」
- 12月16日(金) 奈須重雄さん(731部隊研究者)
「731部隊が1940年～42年に中国で行った細菌戦と被害」
- 12月17日(土) 石島紀之さん(フェリス女学院大学名誉教授)
「映画『苦干』に見る重慶大爆撃の実相」
- 12月18日(日) 五十嵐彰さん(慶應義塾大学講師)
「文化財返還運動の思想的核と提起された諸問題」

《写真展の会場で併設展示》 重慶爆撃の当時のカラー映像を含む映画《苦干》を上映します！

【主催】

NPO 法人 都市無差別爆撃の原型・重慶大爆撃を語り継ぐ会

《共同代表》伊香俊哉(都留文科大学教授)、前田哲男(軍事ジャーナリスト)、瀨瀨厚(山口大学名誉教授)、栗遠奎(重慶爆撃犠牲者遺族)、馬蘭(成都爆撃犠牲者遺族)、雷時仁(楽山爆撃犠牲者遺族)

NPO 法人 731部隊・細菌戦資料センター

《共同代表》近藤昭二(ジャーナリスト)、王選(細菌戦犠牲者遺族)、奈須重雄(731部隊研究者)

中国文化財返還運動を進める会

《共同代表》五十嵐彰(慶應大学非常勤講師)、瀨瀨厚(山口大学名誉教授)、東海林次男(東京都歴史教育者協議会会長)、藤田高景(村山首相談話を継承し発展させる会)

【連絡先】

一瀬法律事務所 TEL03-3501-5558 (担当：元永) 〒105-0003東京都港区西新橋1-21-5

E-mail info@ichinoselaw.com Web サイト <http://www.anti-bombing.net> <http://www.anti731saikinsen.net>